

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(№1から№87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(№88から№100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム幸楽の里
(ユニット名)	けやき(2F)
所在地 (県・市町村名)	和歌山県 橋本市 隅田町 山内1919
記入者名 (管理者)	西村 明美
記入日	平成 21 年3 月18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内に理念の掲示やGHの理念の掲示。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居前との環境が変化しないように家庭で生活しているような環境にし、安心して頂ける様な雰囲気作りに取り組んでいる。	○	月1回の職員会議やフロアー会議内だけでなく、事あるごとに理念を掲げて会話を進めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族の方と理念について話し合う機会を持つまでに至っていない。	○	毎月発行している幸楽新聞やご家族の面会時・地域交流時に積極的に理念の話を取り入れていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当GHは山間部に位置し交通の便も悪いので、日常的な交流は難しいが、地域の年中行事や老人会催しに参加させていただいている。また、法人の催しなどを通して、地域との交流が行われている。	○	地域の回覧板などにも幸楽新聞をいれGHの生活を理解していただく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議に区長や老人会会長に出席していただき、GHを理解してもらおうまた、こちらから、自治会主催の運動会や幼稚園・老人会のイベントに参加する。	○	地域の方が気軽に立ち寄れるように馴染みの関係作りをこころがける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域運営推進会議を持ち、会議内で地元の住民との交流の機会を相談し、行事などに参加している。	○	今後も定期的に交流をもち地域貢献に努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を元に改善出来る所はしている。		今後もフローア会議内での評価を活かし具体的に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会内では実際行っているサービス内容を報告している。		引き続き報告を継続したくさんの意見をサービス向上に活かしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議などに参加することで新しい情報収集をおこなっている。	○	今後も会議などに参加し情報を得、市町村とともにサービスの向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	和歌山県高齢者権利擁護推進員を毎年2名程度受講することで職員に自己啓発を促している。	○	現実に利用される方が現れないと、細部については分からない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に行われている講習に、当事業所に勤める職員が積極的に参加している。		今後も継続的に参加し、事業所内でも勉強会などを行い職員の意識を統一していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分時間をかけて説明している。		利用前に、サービス内容や転倒などの危険性も含め説明している。
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で外食したい、ドライブに行きたい、買い物に行きたい、などの意見を取り入れて実行している。		言葉に出してこう欲しいと言われなくても、以前に喜んでいただいたことを、実行する。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた時はその人の暮らしぶりを話したり、体調不良で急な受診の時にはご家族への連絡をしている。		面会時には、日頃の写真や生活記録ケースを見ていただき、以前お好きだったこと、得意だったことなどをお聞きして、今後のケアを考えていく。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時にコミュニケーションの場を多く持ち家族の意見、苦情などを職員に伝え問題に取り組んでいる		家族訪問時には、時間をとり、話しやすい雰囲気づくりを行っている。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に会議を設けている。	○	コミュニケーションを図り、報告・連絡・相談ができるように心掛ける。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。		利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組めるよう人材を確保していきたい。
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し顔なじみの職員によるケアに努めている。	○	離職については課題として、出来るだけ少なくなるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や、当H Gでも、勉強会をおこなっている。	○	出来る限り研修や勉強会に参加して頂くように取り組んでいく。
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での相互実習に積極的に参加している。	○	サービスの質の向上を元に実習に全ての職員に参加してもらえる様に取り組む。
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各フロアでの食事会を持っている。	○	ストレス軽減の為に今後も行っていきたい。
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	能力を把握し業務内容について割り振りし実行してもらっている。	○	今後も職員1人1人の能力に応じ少しでも向上心アップに取り組みたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時や面談時できる限り会話し、現状の気持ちを汲み取っている。		信頼関係を築く為本人との会話の機会を大切にしていきたい。
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族側の立場にもなり、小さなことでも密に会話している。		家族1人1人の意見は違うが今後も納得し困ったり不安な事を出来るだけ軽減したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、具体的に必要と思われる支援を見極めている。		他のサービス利用についても納得されるように説明したい。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前との環境が変化しないように家庭で生活しているような環境にし、安心して頂ける様に雰囲気作りに取り組んでいる。		安心して頂ける取り組みをしているが、状況により不穏になられる時もある為今後も多彩な対応をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかた喜び哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎食作り、洗濯、掃除、月々の行事の際の時間を大切にしながら慣わしなどを聞いたりしている。		今後も一緒に過ごす時間を大切にしていける。
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜び哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られた際には、日々の状態を伝え家族様の協力を得る為に会話する時間を持っている。		本人を共に支えあう為にもっと密な関係作りをしていく。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々の生活の中で家族様との外出や外泊などを、取り入れている。		今後も家族様との一緒に過ごす時間を大切にしていける為継続していく。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントシート参照や家族様より馴染みの人や場所などを聞き日々の会話の中で取り入れている。		今後も情報収集に力を入れていく。
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し状況に応じて職員が間に入り孤立にならない様に見守りしている。		利用者同士の関係をもっと把握出来るように職員間でも情報交換していく時間を増やしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	暑中見舞いや年賀状をだす。		継続的に暑中見舞いや年賀状をお出しする。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思い意向など日常のコミュニケーションの中で把握できる様努めている。		日々のコミュニケーションを活かし速やかに思いや意向の情報を得るようにしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報やアセスメントシートの把握および、会話での情報をもとに、努めている。	○	今後も家族や本人、日々の中で沢山の情報を得るようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の状態観察や職員間での申し送りなどで、把握している。		引き続き報告や観察に力を注いでいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各自担当利用者を決め、日々の状態観察や家族面会時では情報の共有を行い、職員間での情報を元にケアマネと介護計画を作成している。		今後も継続的に行い、良りよい生活が出来るよう努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の期間を元に変化が生じた際には見直しをおこなっている。		変化が生じた際には密に家族、必要に応じた者との話し合いを継続したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や情報の共有やカンファレンスでの情報を取り入れている。		今後も日々変化することに早急に対応する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	例えば家族と会話したい、会いたいと訴えられた際には早急に対応している		今後も家族や利用者の要望に応じて早急に対応していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア活動を当事業所に来て頂いている。		地域資源との協働を密におこなっていく。
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人やご家族の希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。		他のサービスで活用できるものの把握に努める。
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	解決困難な状況に応じて、協議を行っている。	○	地域包括支援センター職員の運営推進会議への出席について働きかける。
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に添ってかかりつけ医を決め、必要に応じて、健康診断や往診をお願いしている。		希望を大切にし、緊急時のも速やかに対応できるように支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の紹介状にての受診や、ご家族の協力を得て治療活用をおこなっている。		今後専門医などの協力も多く取り入れていきたい。
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接の法人内のナースとの連携を昼夜とわずつ行っている。		早急な連携の相談
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時Drと家族との情報交換を密におこなっている。		入院時の際には継続的に密な関係作りをおこなっていく。
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の変化にあわせ、ご家族との話し合いを多く持ち、主治医の往診などを含めた連携を取っている。	○	ターミナルについての勉強会や家族会をおこなう。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族・主治医・看護師との連携を取り、すすめているが、職員の力量にも差があり、「出来る事・出来ない事」の見極めが難しい。	○	ご本人の気持ちを大切に、ご家族との話し合いを繰り返しベストだとおもわれる、終末期を過ごして頂けるように取り組んでいく。
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	状況に合った居所や家族との話し合いを持っている。		密に情報交換をしダメージを防ぐようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	幸楽新聞もご家族配布がほとんどで、区の回覧に載せるときはご家族の了解を得ている。	○ スピーチロックには、十分気をつけている。個人名の入っているものは、シュレッターにかけている。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	話をじっくり聞いて、答を自分で出すことで、納得のいく生活を送ってもらう。	以前好きだったことを、家族の方に聞いてやってみる。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かしたいと訴えられた際には出来るだけしてもらえように心がけている。	希望にこたえられる様な心がけえをもって支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみなど本人に任せ見守りを行い支援している。	自己決定をもとに支援していく。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活の中で食事作り片付けなどをほぼ毎日一緒にしている。	楽しみが苦痛にならない様に支援したい。
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族との会話でワインなど好んでいると聞き家族持参の上食事のさいに飲んでいただいています。	もっと好みの物などを探し聞き提供出来る様に支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に合った排泄パターンを記録し職員一同が把握し不快感のない排泄支援を行っている。	○	今後パターンの変化もチェックしつつ快適な排泄支援をしていく。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自宅にいたときの、生活パターンを崩さないよう、昼夜問わずの入浴に心がけ訴え時には、出来るだけ入浴して頂いている。		入浴という楽しみを沢山感じて頂けるように支援していく。
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に応じ快適な室温調節や、ベットメイキングを常に行っている。	○	1人1人の生活習慣を良く知り気持ちの良い安眠、休息の支援に努めていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の状態を把握した上で調理、洗濯、掃除、買い物、などの役割や楽しみごとや気晴らしをしていただいている。		日々の状態を把握した上での支援の継続
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物の訴え時の際には一緒に買い物へ出掛けている。	○	今後も訴えを早急に気付き支援していく。
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に一度の買い物日や、天気の良い日の外出を沢山取り入れている。		継続的に外出支援に取り組んでいく。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	面会後に家族との外食や買い物などをして頂いている。		今後も定期的に機会作りに励む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の要求には、家族の協力のもと昼夜問わず行っている。		要求の際には、早急に対応し家族との密な関係作りをしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人が訪問された際には個々の居室にて心地よく過ごし沢山会話して頂いています。		居心地の良い環境や空間作りをしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を職員一同参加している。	○	今後も研修に出けるだけ多く参加しケアの実践に取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関に鍵を施錠している。日中は外に出入り自由であるが常に居場所の把握に努めているが完璧ではない、このシステムは、ご家族もチャイムを押さずに、自由に出入りされている。		今後も鍵をかけないケアに取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを配慮しつつ見守り、巡視を行っている。		プライバシーや安全確認を思い支援していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる状況を記録、報告し速やかに危険を回避している。		リスクマネジメントの強化
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の個々のADLの把握や情報共有を申し送りなどで聞き染みやかに取り込んでいる。		リスクマネジメントについての定期的な勉強会

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間急変があるかもしれない利用者用に、緊急マニュアルを作っておいても、対応できるようにしている。	○	急変・事故発生時の対処法の学習や訓練を定期的に行い全職員が対応できるようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えて、食糧や飲料水の確保を行っている。また、新型インフルエンザ感染にも対応を視野にいれる。		地域のひとと協力し、合同火災訓練をしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	夜間は玄関に鍵を施錠している。日中は外に出入り自由であるが常に居場所の把握に努めているが完璧ではない、このシステムは、ご家族もチャイムを押さずに、自由に出入りされている。		個々の利用者さんのリスクについては、ご家族の方、訪問時今後の改善策も含めて報告している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は出勤時全利用者さんに挨拶をします。人生の先輩に対する敬意とともに、普段との様子の違いなどが見られたら、バイタルチェック等でみきわめ管理者・ナースに報告し指示を仰ぎます。		受診が必要な時は、ご家族に報告し、協力しながら対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルをケースに貼っている。また服薬時はご本人に手渡しし服薬の確認をしている。その後ケースに薬が残っていないか確認し飲ませた職員・ケースをチェックした職員がサインしている。		薬は鍵をかけて保管し、服薬セット者の名前を記入し、ミスにも気をつけている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	リハビリ体操や散歩で体を動かしていただき、出来るだけ水分を取るようし、ブルーノ・ヨーグルト・お茶ゼリー・寒天にきな粉と牛乳をかけたものを供している。		副食2品は野菜を主に提供するよう心掛けている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯は夜間ボリデントに漬け置きし、食後は声かけ見守りで歯磨きできる方、介助が必要な方と力に応じた援助をしている。		歯科受診と口腔ケア指導が定期的にあるので、口腔マッサージの仕方のアドバイスを受けたりできる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ケースに1日の食量・水分量を記入、またメニューリストを作り献立を記入し写真を撮影。偏らない献立に気を配っています。糖尿病食講習にも参加。		固形物を取りにくい利用者さんに食べやすいようにきざみ・ミキサー・一口おにぎりなど食べ物によって工夫する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者の方々と食器洗いしたあと、拭かずに、ミルトンに漬け置きし、乾燥機使用している。		手洗いが中心であるが、食事前はビオロジェンを使用している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、隔日に利用者さんと一緒に買い物に行き、できるだけ日本製を購入する。まな板・包丁・フキン・三角コーナーなどは、夜に塩素系漂白剤に漬け置きする。		旬の食材を利用し、四季折々の行事をすることで、季節感を感じていただく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	履物は下駄箱へすっきり収納し整理整頓を心掛け、昔のおもちゃや、生花を活け照明にも気を配り、落ち着いた空間を心掛けている。		自宅の玄関のような低めのげた箱を置く。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活ける。イベントで撮った写真を飾る。		毎食後モップ崖をし、清潔に気を配る。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルを六角形にすることで全員の顔を見ながら話ができる。マッサージチェアやリクライニングソファアでは、ゆったりとくつろげる。		和室や、洗面所横の畳イスを利用している方や、長イスで脚あげっしながら、テレビを見る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた私物などを配置し居心地の良い空間を作っている。		家族との協力も踏まえ居心地の良い空間作りをしていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	加湿器、エアコン、換気扇など使用し昼夜問わず室温調節に心がけている。		状況の把握や季節に合った室温に気をつけていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内のテーブルは食事、立ち上がりがしやすいように工夫されている。		身体機能に応じて環境作りに取り組む。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	長年利用者が培ってきた得意なことを見極め、職員と一緒に作業してもらい、把握出来ない事は、わかる言葉ではなしかける。(昔使用していたであろう言葉で話しかける)		楽しいと思えることを沢山していただき、現状を維持する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日々楽しく野菜や花などを育て活用している。		継続的に四季に合った物を育て楽しんで頂きたい。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さんの自主性・尊厳を重視し、敬意を持って対応する。利用者さん・ご家族・介護者がともに協力し、気負わず、日々の生活を楽しまれるように心掛けている。